

創立100周年記念

中央分水嶺踏査登山活動報告

総延長: 5000km

踏査率: 13% (2004.5.31現在)

中央分水嶺踏査委員会

2004年(平成16年)
7月号(No. 710)社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

URL ● <http://www.jac.or.jp>e-mail ● jac-info@jac.or.jp

「会員の全員参加をモットー」とする日本山岳会創立100周年記念事業のひとつ「中央分水嶺踏査登山」。今年2月のシンポジウムを機に本格スタートした同計画は、北は北海道宗谷岬から南は九州佐多岬まで全長約5000*の中央分水嶺を踏査するというもので、27に分けられた区間を25地方支部と首都圏(2区間を同好会等が担当)で分担し、踏査を行っている。登山活動実施期間は4月から来年10月まで(一部は再来年4月まで)となっており、経過報告を兼ね、各支部等の踏査状況等を今月号から隔月で順次紹介していくことにする。なお、表題の踏査率は、山行報告書が提出された踏査済み区間の距離を総延長の割合で示したものである。

目次

中央分水嶺踏査登山活動報告	1
海外の山	4
報告	5
事業・若葉山行/自然保護・自然観察会/丹水会・第46回例会/山げら・春笑うやまげら	
支部だより	9
福岡/信濃	
Climbing & Medicine	35
図書紹介	11
『信州大学山岳科学総合研究所年報第1号』『山に学ぶ山と生きる』『The Himalayan Journal Vol.59, 2003』	
会務報告	12
ルーム日誌・新入会員・図書	
受入報告	13
INFORMATION	14

▶ 日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木 10~20時
水・金 13~20時
第2、第4土曜日 閉室
第1、第3、第5土曜日 10~18時
ルーム夏期休業日 8月14~22日

熊本支部

グリーン上が分水嶺!

熊本支部が担当する中央分水嶺は、熊本・大分県境の九重山麓の本高原から、熊本・宮崎県境の白髪岳南麓まで南北180*にわたり、GPSによる測定ポイント122か所となる。会員の高齢化が進み、実働会員が少ない支部としては手に余る計画ともいえるが、先年、支部設立45周年記念事業として実施した「県境の山」436*踏査の実績を生かして、決められた期間内にはぜひ達成したいと考えている。

Cランクの難コースが多いが可能な限り分水嶺ラインを歩いていく。4月15日の全国各紙に中央分

水嶺踏査の記事が掲載されたことから、一般の関心も高まり公募参加の問い合わせもあった。

6月上旬の現時点で、10回にわたる約95* (担当区間の50*以上)を延べ65人が歩いており、予定よりかなり早いペースである。これは、南部九州の夏場では九州脊梁山地の踏査は困難だろうと、若干予定を繰り上げて実施したからである。踏査班長・加藤功一会員の努力で、毎回多くの会員が参加し、楽しく歩いている。

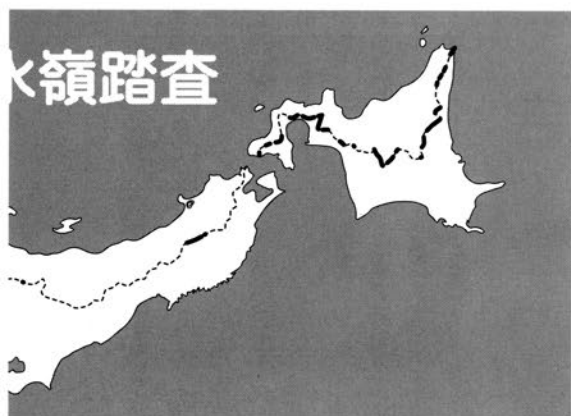
実際に歩いてみて、分水嶺の形が多様であることに気づいた。阿蘇外輪山ではすべて、カルデラの外縁部を通っていた。指定された三角点が分水嶺上になく、逸れていたところがいくつかあった。高原の畑の真ん中に、三角点が鎮

座していたところもあった。里山地帯では、例外なく荒れて厄介なヤブ分けを強いられた。

傑作なのは、高森ゴルフ場の9番ホールグリーンが分水嶺になっていたこと。ホールは西側の有明海側にあったが、太平洋側にオンして、有明海側に転がすのも楽しいではないか。

5月中旬には地元でFM中九州から取材を受け、実際に歩いている加藤功一・百合子夫婦が分水嶺歩きのロマンと楽しさについて語り、5月24日午後放送された。

いま支部は、本年10月開催予定の全国支部懇談会の準備に追われており、九州脊梁山地中央部に入った分水嶺歩きは、今秋以降に再



9番グリーン上が分水嶺

開したいと考えている。

(本田 誠也)

北海道支部

全長千^キ、長く厳しい挑戦！

北海道支部は中央分水嶺全体の2割に相当する、宗谷岬から白神岬までの1065^キを受け持っている。

昨年11月30日に第1回の踏査実行委員会を開催し新妻支部長以下三役、中村実行委員長他でブロック担当と実施計画案の策定を行い、全道を道北、道東、道央東、道央西、道南の5ブロックに分けた。

このうち8割が積雪期での踏査となるため、すでに今年1月2日から踏査が開始されている。その後、踏査実施と並行して、数回の実行委員会を開催し、計画概要や踏査実績について「分水嶺踏査特集号」や定例の「支部だより」で周知徹底し、多くの会員・会友の参加を呼びかけてきた。

実際の踏査に際しては、林道の調査や事前の下見をしたり、猛吹雪のため途中で引き返したりと、冬期間は苦労も多い山行となっているが、支部長自ら最北端の宗谷岬、最南端の白神岬の踏査を実施済みである。

道北ブロックはエスケープルートが少なく、ロングコースが多い。天北峠から上紋峠までの約36^キのように、山中3泊で中村喜吉・漆崎隆会員が踏査している。宗谷丘陵では、樹木がなく広大な地域と多くの沢が複雑に入り込んでいてルート確認に苦労した。道東ブロックは大雪山や十勝連峰を擁し、冬期踏査は一段と厳しくナイフリッジや急斜面の通過には、常に滑落や雪崩の危険と真剣に向きあっている。

道央東ブロックは低山で登山道



厳しい天候下での踏査(道北の函岳頂上)

も、山行実績もなく、多くの林道が入り込んでいて踏査に時間を要している。道央西ブロックは比較的踏査しやすいルートが多く、すでに76^割の踏査が完了した。道南ブロックは奥深い低山が多く、山行実績がないこと、雪融けが早いことなどから25^割の進捗率となっている。また、残雪期の道南はヒグマが多く、足跡を見ながらの踏査はよくあることで、前回は親子熊に遭遇し踏査を中止して引き返した。

分水嶺踏査をしてみて、地形図と人工物(特に送電線)との相違点が散見された。普段の山行では行くことがない地元の山域を踏査

中央分水



し、新しい発見をし、また、発見する楽しみを見出した。

今回の分水嶺踏査事業は、新聞に報道されたこともあり、他の山岳会や一般市民からも踏査参加の申し出が来て、すでに参加実施している。また、今夏予定の千歳空港から支笏湖間にも、千歳市民ら約20名から参加希望がきており、踏査が計画されている。

1月から5月10日までの分水嶺踏査実施状況は、踏査回数合計75回、延べ踏査距離385[※]、延べ参加者301人になっていて、進捗率36%である。今後も各ブロックで、残っている多くのルートでの踏査計画が予定されている。

(鈴木 貞信)

山陰・広島支部

2支部合同キックオフ
三坂峠に固い握手

山陰および広島支部は、4月4日、広島・鳥取県境にある道後山・山麓の三坂峠に集まり、中央分水嶺踏査の合同キックオフ大会を盛大に行った。山陰支部からは高田允克支部長ほか14名が、広島支部からは種村重明支部長ほか15名が参加した。

開会式ののち、早本和佳子さん(山陰・実行委員長)と佐々木弘磨さん(広島・実行副委員長)が分水嶺標識を持って固い握手を交わす。そしてこの標識を皆の拍手のもと、近くのヒノキの幹にとりつけた。さあ、キックオフだ!

これから1年半、山陰支部は人形峠からここまでの、広島支部はここから山口県の仏峠までの道なき道をたどりつつ一本の線に育てていく。

その後、一行は道後山山の家へと移った。昨夜の雪で冬の山小屋に舞い戻った感じだった。

講演が始まった。今回の分水嶺踏査の仕掛け人・近藤善則さん

(科学委員)による「分水嶺の意義と魅力」である。皆、スライドを眺めつつ熱心に分水嶺への熱き想いを聞き入っていた。昼食後はストープを囲むようにしての交流会。支部報を担当する私は、次号にこのイベントを取り上げ、タイトルを「南北より集まり東西を語る」にしようと思った。

(国枝 忠幹)

丹水会

山と人のかかわりのデータも

ここ20年あまり神奈川県中央部に位置する丹沢をホームグラウンドとして、春と秋に年2回の山行を重ねてきた丹水会が、中央分水嶺踏査に早々と名乗りをあげたのは、会として丹沢以外の山も経験してみたいとの願望があったからだ。上信地区の山田峠から鳥居峠間の担当となったが、この地域の山行記録はそれほど多くはないし、ガイドブックに載るほどの山も少ない。インターネットで調べてみると、記録はすべて藪こぎが大変とあって、悲鳴が聞こえてくるようである。

実際に歩いてその嘆きが決して大げさではなかったことを実感。藪を警戒して残雪期にとりあえず出かけたが、雪が少なくてかなりのところでササが頭をもたげていたのは大いなる誤算であった。

記録はホームページでご覧いただくとして、印象的だったのは日本海側と太平洋側の地形の違いである。なだらかな太平洋側に比べて日本海側のなんと荒々しいことか。地形の異なりは人々の暮らしにも大きな影響を与える。太平洋側では万座山が頂上近くから緩やかに裾野を広げ、古くから温泉とスキー場が発達した。分水嶺が四阿山につき当たって菅平に至るまでの日本海側は崩落が激しい。分水嶺はここで90度方向を転換し、浅間山の裾野へと続くが、総じて太平洋側の方が緩やかだ。

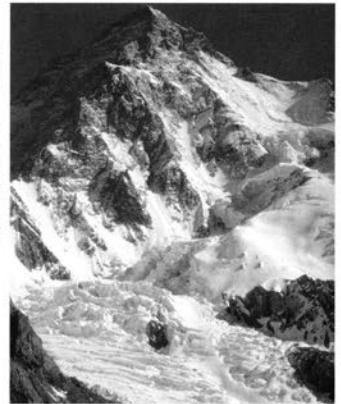
分水嶺の一角に立ち、広大な平原に集落ができ、娯楽施設の林立へと変貌する過程で、麓の暮らしも山に入る形態もずいぶん変化しただろうとことを考えるとより興味が増す。踏査記録にそういう一面の記録が加われば、さらに充実したものを残すことができるのではないだろうか。

(泉 久恵)

海外の山

K2初登頂50年

江本 嘉伸



K2の威容(日本山岳会青年部K2登山隊報告書から)

世界第2の高峰、K2(8611

メートル)は、一般登山者で賑わうエヴェレストに比べて近づきにくい山の印象がある。本質的なことではないが、エヴェレストには登頂していない、

戸高雅史、山野井泰史といった日本の代表的な登山家がこの山には無酸素、ソロで登っていることもなんとなくわかるような気がする。

アンナブルナの初登頂者といえば、モリス・エルゾグとルイ・ラシユナル、エヴェレストは、ヒラリーとテンジン、ではK2は？ ええと、イタリア隊であることは間違いないが、登頂者の名は……。というのが多くの人の反応ではないだろうか。このことについては、多少のいきさつがある。

1954年7月31日午後6時、イタリア隊の2人がはじめてこの山の頂きに立った時、その名はすぐに

公表されなかった。

隊長のアルデイド・デジオがスカルドゥに向けて発信した8月3日の電報。英文に翻訳しての内容だった。

「VICTORY DATED THIRTY FIRST JULY ALL WELL TOGETHER AT BASE CAMP PROFESSOR DESIO」

デジオは、この後に発信した登頂を伝えるメッセージの中で「頂上に足跡を印した2人の同僚の名前はさしあたり発表しないと、諸君が互いに相談して決めたことも忘れないでもらいたい。この態度は高く評価されるだろう」([La Conquista del K2] 邦訳「K2登頂」近藤等訳・朋文堂刊)と、書いた。

そんなわけで、アチレ・コンパニョーニ、リノ・ラチェデリの2人の登頂者の名が伝わるのはだいぶ時間を経過してからであった。登頂者

として名前を残すことが生きがいといつてもいい昨今の風潮とは、だいぶ違う。

なお、デジオは、2001年、104歳の長寿を全うしてヒマラヤに逝った。

カシミールにハラムクという5千メートルほどの山がある。1856年9月10日、インド測量局のモントゴメリー大佐がこの山から天空にそそり立つ二つの大きなピークを測量し、「K1」と「K2」とノートにメモした。「K」は「カラム」の意味だ。後になって、K1はマッシュヤブルム(輝く壁)、K2はチョゴリ(大きな山)というバルチ語の名を持つことが判明するのだが、当時はそれがわからず、五角錐状にとがった大きい方のピークには「K2(カラム2峰)」の名が定着した。

ヒマラヤの高峰の名が正しく継承されるかどうかは、所在地に左右される。

インドの北、避暑地として知られるダージリンの町からは、世界第3の高峰、カンチェンジュンガがよく見える。見えるから外国人にも山の名前がすぐわかり、この山は本来の名が生き残った。K2はそれに比べ、人里からは「見えない山」であった。

見えないため、すぐには名前がわからなかった、という宿命がある。ともかくも、「ケー・ツー」は、それなりに味わいのある名前として定着した。

K2の威容が世界に伝えられたのは、1909年、アブルツツイ公率いる最初のイタリア隊によってであった。写真師として参加したヴィットリオ・セッラがコンコルディアからどつしり構える世界第2の高峰をとらえたのである。

初登頂50周年にあたる今年、K2を「イタリア人の山」とみなすイタリア人たちによって登山基地のスカルドで「K2博物館」を開設する話が進んでいる。コンパニョーニ、ラチェデリのほか、コミチ、カシン、ボナッティ、メスナーまでイタリアの著名な登山家の系譜を展示しようというもので、オーブンを初登頂日の7月31日としている。

それを記念して南北両サイドから新たにK2イタリア登山隊が組織されたが、早々、5人のポーターを渡河の際、失う悲劇が生じた。

天気は荒れ模様で、各国隊ともキャンプを進めるのに苦労している。記念の年、K2の厳しさは変わらない。



温泉郷の宿にて7名の参加者

若葉山行を歩いて

事業委員会

恒例の若葉山行に参加し、乳頭温泉郷を楽しんだ。事業委員の粋な計らいで、オプシヨンの花の山「秋田駒ヶ岳」に登れることになり、久しぶりの夜行バス・レーク&ポート号で田沢湖駅前に5月29

報告

7月

Report

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です

日8時着。タクシーで国見温泉登山口へ。

階段状の登り道を歩きだす。ミヤマハンノキ、ダケカンバ、ブナの新緑のなか、気持ちいい汗をかきながら横長根分岐へ約1時間ほどで着き、小休止、残雪の女岳・男岳の雄姿が目飛び込む。歩き始めるとミヤマネズハイマツの間から大火山口原が見渡せ、自然観察の絶好の場所と言える。尾根道にはシラネアオイ、ミネザクラ、スミレなどが次々に目を楽しませてくれる。大焼砂を通過、本来ならばコマクサの大群落が見られる場所であるが、定期的に早いため、ミヤマキンバイが黄色の美しい花を一面に咲かせていた。横岳(1583m)を通過、残雪を踏みしめ阿弥陀池小屋に着く。6月1日の山開きを控え、工事関係者とボラ

ンティアの人たちが山道の整備に登っていただけで、登山者はまったくいない静かな阿弥陀池を眺めながら昼食をとる。

その後、秋田県最高峰の女目岳(1637m)に登頂。一等三角点標石と360度の展望、目の前に荒々しい山容の男岳、そして明日登る予定の乳頭山の端麗な山容が望まれた。お花畑、片倉岳展望台(1440m)を通過。その先には6月中雪渓が残る、通行注意の沢があり、八合目小屋に16時10分着。運良く地元登山者に出会い車で宿まで送ってもらった。

宿には16時集合、参加者全員が揃い、田沢湖温泉郷のいで湯を楽しみ、囲炉裏を囲んでの夕食となる。秋田名物ヤマノイモナベ、キリタンポ、鮎焼きや山菜、地酒で大いに盛り上がった。夜半から雨が降り出す。

翌30日朝8時、乳頭山登山口の黒湯に車で送ってもらったが、土砂降りの雨と朝もやで予定変更。リーダーの英断で乳頭温泉郷めぐりにきりかわる。新奥の細道のハイキングコースを約2時間30分ほどかけて歩く。黒湯・孫六・大釜・蟹場・鶴の湯へと傘をさして

の森林浴を楽しみ、名湯・鶴の湯にて一浴。ご主人で会員でもある佐藤さんから、自慢の地酒の差し入れがあり、風呂上りの一杯は最高であった。その後、秋田市にあるブラザクリプトンにて開催中の山菜文化研究会に出席、山菜料理を大いに味わった。翌日は五城目朝市見学とジュンサイ摘み取り体験、昼食はJA山本の《ここだけの味手づくり山菜弁当》を賞味し秋田駅前で現地解散となった。

事業委員の盛りだくさんの企画を楽しめ、担当者のお骨折りに感謝いたします。(高木 康雄)



ATLAS TREK

個人手配旅行から人気のトレックツアーやエクスペディションのアレンジまで。充実度が違う「旅」のプランニングをここがけています。山旅などあらゆるジャンルを取り扱っています。お気軽にご連絡ください。

株式会社 アトラストレック
(国土交通大臣登録旅行業1167号)

東京/〒160-0008 東京都新宿区三栄町23 TEL 03-3341-0030
大阪/〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL 06-6946-9111
名古屋/〒464-0807 名古屋区千穂区東山通り5-113 オークラビル6F TEL 052-788-2422



自然保護委員会

東大秩父演習林・
自然観察会

5月22、23日に自然観察会が開催された(参加者は25名)。演習林は、関東山地のほぼ中央荒川源流部にあり、秩父市の西方40^{キロ}の入川、滝川流域にまたがる5800^{メートル}もある広大な領域で、日本山岳会で植林作業を進めている高尾の森の30倍以上もある。標高域は530^{メートル}から1980^{メートル}を占めており、山地帯と亜高山帯の2つの森林帯が含まれている。

22日は9時半に中央線相模湖駅に集合してマイカー5台に分乗、11時半に現地に到着した。昼食後、澤田春雄技官と五十嵐技官の案内で観察がスタートした。澤田技官は高枝バサミで次々と手際よく枝葉のサンプルを切り取り、樹木名と特徴を説明しながら大きなビニール袋に入れていった。3時間半の間に50種目以上のサンプルで袋はいっぱいになったが、私の頭の中はたちまち満杯、その場で樹木名を覚えることは早々にギブアップした。似たような樹木の区別がよく付くものだと皆で感心した

(演習林には全部で270種類の樹木があるとのこと)。

夕食後のミニトークではサンプルをひとつひとつ取り出し、全部見事に復唱解説されたが、その中でカエデと称するものが14種類もあった。秩父演習林は人工造林地が全体の13^{パーセント}、落葉広葉樹主体の二次林が54^{パーセント}、天然林が32^{パーセント}となっている。演習林では実習や研修の他に公開講座を開いて一般市民の自然に対する理解と関心を高めることに努めている。近年、演習林スタッフの補助役としてサポーター制度が設けられ、われわれにも3名のサポーターが付き添ってくれた。

2日目の23日も雨模様であったが、樹木園と尾根筋のツガ・ブナ林と沢筋のシオジ林を案内してもらった。樹木園は原生林主体であった林に、周辺からの移植や北海道、外国の樹種を導入し、75年前に設置されたところで、園内には95種類、133本ものラベルが取り付けてある。

シオジが見事に群生しているところでは樹高は35^{メートル}ほどもある。シオジはサワグルミと違って、枝葉は地面に近い部分と10^{メートル}ほど離

連続講演会「語り継ぐ 黎明期の登山…それぞれの山」 第3回 坂倉登喜子さん 「女が山に登るとき・花への思いを馳せて」

資料・映像委員会

坂倉登喜子名誉会員(94歳)は、女性登山の黎明を肌で感じながら、80年以上も山と係ってきました。登山人口が稀であった昭和初期、女が山に登るという行為には「女だてらに」という言葉がはね返ってきたそうです。そんな時代、「女だからこそ」の思いで挑んだ登山への姿勢、努力、楽しみとはどのようなものだったのでしょうか……。

また、トレードマークとなっているエーデルワイスとの出会い、エーデルワイスクラブの創立、エーデルワイス探訪についてもお話いただけることでしょう。

女性の目が見つめ続けてきた登山史から、黎明の時代を振り返り、温故知新の真骨頂を描いてみてはどうでしょう。女性ならではのトークに交え、貴重な映像も放映予定です。どうぞご期待ください。

日時 10月6日(水) 18時30分～20時30分(入場は18時より)

場所 東京体育館 第1会議室(JR中央線「千駄ヶ谷」駅下車1分 都営地下鉄大江戸線「国立競技場」駅下車A4出口前)

定員 120名(当日の受付、会員外の参加も可、無料です)

申込み・問合せ 郵便、メール、FAXにて会員番号、氏名を記入のうえ

*奈良千佐子まで(〒150-0001 渋谷区神宮前3-29-11 FAX03-3402-6014

メール mt.chisako@mbc.nifty.com)

*または、山岳会事務局まで(TEL03-3261-4433・FAX03-3261-4441)

れた上部に茂った部分に分かれた階層構造をしているので太陽光線は下の方にも差し込み、幼樹も育って更新が自然とスムーズに行われ、実に賢い有用な樹木の優等生

なのだ。

演習林には落雷で枯れた樹木群や鹿剥ぎ、クマ剥ぎにあつて枯れた樹木、クマ捕獲用の罠などもあり、哺乳類も共存する生物多様性



新緑の陣馬山麓にて

丹水会 第46回例会

丹水会第46回例会は、5月22日、新緑に覆われた陣馬山麓・

のある豊かな自然に満ちた森であると感じた。
鮮やかな新緑に包まれた演習林は溪谷美が素晴らしく、つり橋を渡り、いくつもの滝を観賞することができたが、紅葉の時もまた来てみたいと思った。楽しく、有意義であったこの観察会を要領よく企画運営された自然保護委員舟根さん、川越さんに深く感謝する。

(関 清)

藤野町佐野川にある桐花園で39名の参加で開催された。この宿は、今回で3回目の利用となるが、私にとっては初めて。記憶では、前2回の記念写真には、昭和天皇のご真影がある宿であった。ここへはJR藤野駅からの参加者が多かったが、裏山の陣馬山や、中には高尾山から遠路参加など様々だったが集合時間の18時にはほぼ参集。夕食に先立って恒例のミニ勉強会。今回は、JAC100周年記念事業である中央分水嶺踏査の丹水会割り当てエリアについてだ。事務局長の森先生や国見幹事より4月24、25日に実施された踏査報告が、プロジェクトを使って行われた。内容は、丹水会幹事で行った、熊四郎山から万座山周辺の詳細であった。周囲は藪山で雪解け後にあらわれた笹に行く手を阻まれ難渋し、笹林で泳ぐ羽目になったとか？残った区間は翌年の積雪期に再度チャレンジすることなど報告された。会場では丹水会踏査資金の募集も行われ、多くのご厚志を頂戴した。また、一般登山道のある四阿山などは多くの丹水会会員の参加を得て踏査し、あわせて盛大な踏査完了行事を行う

ことも考えている。

夕食は宿舎の都合（温水プールの合宿組とかち合った）もあり混み合ったため、丹水会始まって以来の最短の1時間半という設定。席にはあらかじめ、スキヤキにご飯みそ汁があり、乾杯もそこそこに済ませ、長老錦織さんの音頭で1次会を締めた。この後の恒例の交流会は場所を改め、川沿いのログハウスに移動。11時までの約3時間、初参加者の紹介と挨拶の後、持参の地酒を楽しみながらの「堪酔会」となった。

翌日は曇り空のもと、目標を陣

馬山として、陣馬・高尾自然公園センター先で山道に入る。尾根の中腹で小雨が降り出したが、歩くこと1時間半で山頂に到着。その頃雨は上がったが眺望はかすかに見える生藤山周辺のみ。山頂ではお馴染みの白馬をバックに全員で記念撮影。ここで大森さんの挨拶で次の再会を約束して各コースに別れ散会した。

丹水会では過去には、全員が同一コースを歩いた時期があったが、最近では自然保護の観点から、少人数で静かなコースを歩くようにシフトし、思い思いのコースを各

▲世界的に類を見ない貴重な探検記録 禁断のアフガーニスタン・ パミール紀行

ビクトリア湖畔

——ワハーン回廊の山・湖・人——

平位 剛 著

A5判 480頁

豪華限定本のみ僅少在庫有

地政的理由から永らく外国人の入域が閉ざされていたアフガーニスタン東北部に盲腸のように突出するワハーン回廊へ故マスード将軍に庇護され、1999～2001年の3年間探検に入った世界的に類を見ない貴重な探検記録。



◎好評発売中!!

定価(本体33,000円+税)

カラコルム・ ヒンズークシュ 登山地図

〔付〕カラコルム・ヒンズークシュ山岳研究

A4変型判 上製美装ケース入
385ページ B全判地図13葉

宮森常雄(株父宮記念山岳賞受賞)・
雁部貞夫 共著 ・カタログをご請求下さい

ナカニシヤ出版

〒606-8316 京都市左京区吉田二本松町2

Tel.075-751-1211 Fax.075-751-2665

URL <http://www.nakanishiya.co.jp/>

今年もさくらんぼで会いましょう

自で選んでもらっている。

最後に個人的には、私の心の中にあつたご真影はなく、期待はずれであつたが、参加者には東京都から山梨県との境を越えてすぐのこの地で、静かな宿とよい山が残っている、今回の集會も新緑を十分満喫できたものとなつたと思う。

(山本 正基)

山げらの会

春 笑うやまげら

『山』2月号のインフォメーション欄に「恒例の歩くスキー」の公募があり初参加した。

やまげらの会とは、首都圏支部を解散後に女性だけの一部有志で作られた会だそうで、二十数名が正会員として活動されているとのことだつた。今回、公募での参加は私のほか3名、女性8名、男性7名の15名が六日町温泉国際ユースホテルに2泊して、歩くスキーを楽しむことになる。

日程は、4月9日から11日の2泊3日、以下に、印象に残つたこ

とを報告する。

初日の9日は、午後10時集合となつていたので、坂戸山のカタクリを訪ねた。駅に荷を預け、空身で石仏が等間隔に並ぶ尾根コースから桃の木平に下りるコースを取つた。雪の消えた尾根には、サクラがちらほら、タムシバは満開、期待のカタクリは山麓は咲いてはいたが、群生地の大城と桃の木平は残雪に埋まつていた。634のお社は富士権現とある。

六日町駅に戻り、荷を回収して、宿に向かう。夜15名が集合して、自己紹介、新潟のお酒が旨い。

翌10日は、奥只見丸山スキー場へ向かう。ユース所長運転の28人乗りバスでシルバラインの長いトンネルを抜け、1時間強で到着。リフト2本を乗り継いで丸山へ。つぼ足2名、他はネイチヤースキーや山スキー、エトセトラ、山岳展望の良いビューポイントで昼食をとる。

奥只見湖(銀山湖)は、上信会越のど真ん中だ。丸山は1200mそこそこしかないが、美しい山

ビールパーティー ご案内

恒例のビールパーティーを開催します。

お仕事帰りにぜひお立ち寄りください。ビールを片手に夏山の成果を語り合ひましょう。

日時 9月1日(水) 19~21時
場所 日本山岳会・集會室
会費 2000円
主催 総務委員会
申込 8月20日(金)までに電話、FAX、メールで事務局へ

※お酒おつまみの持ち込み大歓迎です

がたくさん見える。会津朝日、丸山岳から会津駒の稜線、燧岳、平ヶ岳、荒沢岳、中ノ岳、未丈ヶ岳、毛猛山。越後駒は日向倉に隠れているのか? 至仏も浅草もはつきりしない。守門は、少し移動したところで見える。

本日の夕食は特別食のようだ、ホスピタルの手前おおつびらには言えないが、カンゾウのぬたが旨かつた。

翌々日の11日は、銀山平から北ノ又川散策となる。雪支度のままの学習院小屋から、しばらく手前に雪を掘り食卓を設置。ご馳走は、天婦羅、豚汁、新潟の飯と酒。ご飯は中ノ岳や駒と同じようにテカテカに輝いている。天婦羅は、花

付きのワサビから始まつて、タゼリ、コゴミ、キクの冬芽、タカノツメ、ヨモギ、ミズナ、ミツバと続いた。時季的にもコシアブラやタラの芽がないのが印象的で、素晴らしい食材だつた。

最後に、毛猛山の右隣の山座同定が釈然としないので、帰京後に山の雑誌を調べていたら、1973年版の山雑誌に、同室された江花氏が毛猛に入つた記録や、この山域の対談が載っていたのにびっくり、日本山岳会の底の深さに感激するとともに、やまげらのメンバーの上品な笑いを楽しませていただいた。

お世話になつた皆様方、ありがとうございました。(豊田 茂)

創立100周年記念事業にご協力を

当支部では、2001年春(1次、02年春(2次)の2回にわたり東チベット・カンリガルボ山群の東部地域の探査を実施した。チベット最長のラグ(拉古)氷河周辺からその西方のソングン(松宗)、ポミ(波密)にわたり林立する6千メートル級のピークについて、山名の調査、同定およびこの地域の地形確認を行ったものである(地元住民、ラマ僧から聞き取りによる山名調査、トランシット

カンリガルボ山群探査

福岡支部

JAC 支部だより



全国各地の支部から、独自の活動状況をレポートします。

による旧ソ連製地図上の同定)。

昨年11月には、さらに精査するため3次調査隊(隊長・松本征夫以下8名)を派遣した。最高峰口ウニから北西方向に連なり、カンリガルボ山群の脊梁をなす13座を地図上で同定し、山名の解明を試みた。また4名の隊員がラグ村の西にそびえるヒヨン(約5千メートル)に登頂した。ラグ氷河と同氷河周辺の峰々をつぶさに観察することができた。その後、メイツイ(米堆)の谷に転進し、4名の隊員がこの谷の最奥部を4500メートルまで登ることによりラグ氷河との境界に位置するゲムソング、ハマコンガの登路などの調査を行った。当支部は3回のカンリガルボ山群東部の探査の結果、多くの知見を蓄積してきた。その概要について『Japanese Alpine News』に投稿しているが、詳細な内容を整理し、撮影した写真、山域の概念図などを含む報告書を作成する予定である。

今年10、11月には4次調査隊を派遣することとし、現在具体的な

行動について検討中である(他支部の参加を歓迎する)。

福岡支部のカンリガルボ詣ではまだ続く。(中山 健)

信濃支部

第58回ウエストン祭

1891(明治24)年、ウエストンが槍、穂高に登るために徳本峠を越えて上高地に入ってから百十余年、ウエストン祭と位置づけられてから数えて58回を迎えることとなった。

4月27日の「上高地開山祭」が

春を告げる祭典に、6月第1土、日曜日の「上高地ウエストン祭」は夏山シーズンの幕開けとして定着することとなった。

6月5日、記念山行。昨年は時季外れの台風に見舞われ中止となったが、今年は残雪も少なく地元安曇小中学生170名を含め約450名の参加を得、雲ひとつない快晴の山道は人の波が峠へと延びて続いた。ダケカンバの老木もカエデの巨木も100年前のウエストンを知っているだろうか。

「日本アルプスにはヨーロッパアルプスにない良さがある、それは

ユングフラウヨッホにいちばん近い村、ウェンゲンの家庭的なホテルアイガーと、スイスの旅の専門店アルプスウェイが自信をもってお勧めする共同企画。

アルプスウェイご利用で、ホテルアイガーにお泊まりの日本山岳会会員様へ4つの特典。

1. ユングフラウのよく見えるお部屋を優先的にご提供。
2. 民族料理フォンデュをご滞在中の夕食に1回ご用意。
3. アルプスウェイ駐在員による1日の専属ガイドサービス。
4. ホテルのオーナー、フックス氏より地元産リキュールをプレゼント。



あなたのスイス旅行を、このホテルアイガー滞在を組み入れてご用意します。

お問合わせ
お申込みは **アルプスウェイ**

<http://www.fellow-travel.co.jp/>

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂2-16-8 ビジネスヴィップ渋谷ビル4F

Tel.(03)5489-9541 Fax.(03)5489-6300

e-mail alpsway@fellow-travel.co.jp

〒530-0002 大阪府大阪市北区曽根崎新地2-3-13 若杉大阪駅前ビル6F

Tel.(06)6347-8984 Fax.(06)6347-8986

e-mail osaka@fellow-travel.co.jp

主催：株式会社 **フェロートラベル** （日本山岳会会員）

国土交通大臣登録旅行業664号 協賛：ウェンゲン観光局・ツェルマット観光局 後援：スイス政府観光局

ALPS WAY.
We Love Swiss

Climbing & Medicine · 35

“サバイバル”という言葉について

中島 道郎

サバイバルとは、「どんなことがあっても、死なずに生きて帰ってくる」ということである。それについて、ピーター・クンメルフェルトは次の6つのキーワード、すなわち、①生存、②能力、③気力、④自立、⑤逆境、⑥忍耐を挙げている。[Wilderness Medicine Vol.20, No.3 (Newsletter, Summer 2003)]

①**生存** 生死の境にあって、全く無傷ということとはむしろ稀で、たいてい何らかの傷を負っている。まず自分で応急手当をする。つまり患者は同時に医師である。同行者の手当をする場合もあり、包帯の巻き方や副木の当て方などを習得しておく。保温、保冷、脱水対策も大切。体温が $37.0 \pm 3.3^{\circ}\text{C}$ の範囲を逸脱すると脳の機能は低下し、わが身を守る正しい判断ができず、死に至ることがある。

②**能力** 緊急事態を生き抜くには、応急手当、

風雨対策(小屋掛け)、焚火、水の調達や処理、合図の工夫などのワザの習得が必要で、それが手際よくできるよう、普段から練習しておくこと。そのワザもなしに、生きて帰れたら、それは運が良かっただけのこと。

③**気力** 絶対生き抜くぞ、という強い気力、生きようとするしぶとさが根本。これがないと上記のワザも立派な装備も役に立たず、反対に、これさえあれば、最低限のワザと装備だけで生き延びられる。

④**自立** 同行者の助けをアテにしない。自分の体は自分で守る覚悟で、登山計画は、いつもひとりで行けるものとして立てること。

⑤**逆境** 出発前にはいつも、「考える最悪の事態」と「野宿」の2つの場面を想定して準備する。そうすれば、後でどんな事態が起ころうとも慌てることはない。

⑥**忍耐** 救助隊を待つ間にすべきことは、「見つけ出してもらうのに一番良い合図方法は何か」を考え実行する、に尽きる。行方不明者の捜索は、特に登山計画を残して行かなかった場合は、時間がかかる。待つ身にとり、発見・救助されるまでの時間は非常に長く感じられる。しかし、救助される可能性は、1か所で動かずにじっと待っている方が、歩き回るよりずっと高い。動きたくなくなる気持ちをぐっと抑えて動かずにいるのは強い意志の力が必要。この、救助隊の来援をじっと座って待つ忍耐力の有無が生死を分ける。

緑深い谷である」。ヨーロッパから帰った横さんの言葉を思い出す。

6月6日、碑前祭。この日のために作られ歌い継がれてきた、安曇小学校4年生とエーデルワイスクラブの「ウエストン祭の歌」に導かれ、地元安曇村筒木村長、平山会長の挨拶。今は亡き詩人尾崎喜八先生は毎年この朝作詩し、自らウエストンの碑前で彼に捧げてきた。その詩は女性会員によって朗読され、静かな余韻が流れる。

芳賀副会長による講演「日本山岳会100周年を迎えるにあたり」では、創立150年になる英国山岳会に、31歳で入会したウエストンが、1905年日本山岳会が創立される折り、彼の指導、支援が多であったことなどに触れ、このことを後世に残すことに意義があり、ウエストン祭として継承されていると語られた。

日本山岳会設立のモデルとなった英国山岳会は、世界初の山岳会である。プライドと威厳に満ち、女性会員を認めず、夫人同伴禁ずというのは当時の英国らしい話である。アルプスからアンデス、ヒマラヤへと足を運び、世界の登山

界をリードした英国山岳会の一連の輝かしい歴史が楽しく語られた。ウエストンに教えられ、英国山岳会の影響を受けて歩んできた日本山岳会は2005年に100周年を迎えるが、これを機に山岳会のあり方をじっくり考え、二十一世紀の会の進むべき道を見出し、いきたいと結ばれた。

ウエストン祭を立ち上げた先人たちの精神、ウエストンの人間として岳人としての人格、歴史的意義を再確認し、その1ページに確たる足跡を残し続けていかなければならない。

(中野 和郎)

★K2初登頂50周年記念特別企画★

究極の絶景が身近に。秘境デオサイ高原で高所順応

**K2・バルトロ氷河ヘリ・フライトと
コンコルディア、パイユ着陸11日間**

①8月27日(金)～9月6日(月) 498,000円
②9月17日(金)～9月27日(月) 498,000円

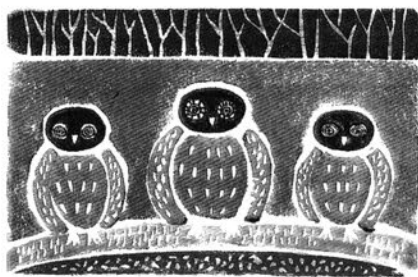
東京発着

国土交通大臣登録旅行業第490号/出日本旅行業協会正会員 日本旅行業協会正会員

アルパイン ツアー サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

図書紹介



幸せを呼ぶ鳥 版画・奥野漢石

佐藤利幸他・編

『信州大学山岳科学 総合研究所年報第1号』

信州大学山岳科学総合研究所・編

『山に学ぶ 山と生きる』

信州大学に2002年、山岳科学総合研究所ができた。「山岳文化とエコ・ツーリズム」「山岳基礎科学」「自然と人間共生」「登山・スポーツ」の研究活動からなり、多数の研究者を擁している。本書はその研究年報と解説叢書である。

研究所ができてすぐ95編もの報告書を出せたのは、「ああ信州よ山の国 誇りは高しアルペンのこと」と寮歌に歌った旧制松本高等

学校の流れをくむ信州大学であればこそ、常々あらゆる分野において山との関連の研究が行われていたことを物語るのではないかとと思われる。

『山に学ぶ 山に生きる』所載の梅棹忠夫さんの「山と学問」は登山の基本を語る原典として永く読み継がれるべき名著である。

日本山岳会のすべての会員に読んでもらいたいと思う。

山岳図書の小谷コレクション7千冊がこの研究所に寄贈された。

エコ・ツーリズムについて「多角的な視点から評価されることによって、エコ・ツーリズムの在り方の議論がより深化することが期待される」と記載されている。

(松丸 秀夫)

2003年3月発行 185頁
2003年5月31日 信濃毎日
新聞社発行 270頁 1900円

『The Himalayan Journal Vol.59, 2003』

創立75周年を祝ったThe Himalayan Club (本部・インド・ムンバイ)の機関誌である。

巻頭、論文・登山報告、遠征、書評、追悼に大別しており、巻頭の中には、ヒマラヤの先駆的登山と地理的発見に貢献したことが評価され、(英国)王立地理学会・パトロンズメダルを受賞したカプ

ディア当誌編集長の授賞式でのスピーチを載せている。

論文・登山報告ではエヴェレストの現地名研究、ヒマラヤと人類の生成、カトマンズ国際映画祭でのダグ・スコットのスピーチなどとともに幅広くヒマラヤ全体の登山報告がある。東カラコルムやガル

ルナルなど6000〜7000メートルの初登頂や新ルート開拓などが並ぶなかで中村保氏の「チベットのアルプス」、日・印合同隊総隊長カパディア氏と登攀隊長坂井広志氏の「シャイヨーク川とヌブラ渓谷横断」、「パドマナブ初登頂」が目玉を引く。また、カパディア氏による「カラコルムの王様」は、登山の縁の下力持、ロバたちを温かい眼差しで観察した一文も興味深い。

遠征欄では、インド隊を含め各国からの登山隊情報盛られており、印・パ両国登山隊がUIAAなどの支援でスイスのメンヒに一

緒に登頂した嬉しい話もある。邦人による情報提供も多く見られ喜ばしい。

書評ではメスナー著「ヘルマンブルー」など27点を紹介。また、1924年マロリーとアービンが帰幕しなかった英国エヴェレスト隊に参加し、34年ナンガ・パルバットでドイツ隊が大量遭難した時に、ただひとり第4キャンプに帰還したアンツェリン氏を追悼している。貴重な写真や地図も多数あり。

The Himalayan Club 2003年9月発行 292頁

(南井 英弘)

8日間

**スコークーロッジに泊まる
カナディアンロッキートレッキング**

【日程】9/5(日)~12(日) 【代金】438,000円

6日間

**紅葉のアラスカ マッキンリー展望
ハイキング三昧&オーロラ**

【日程】9/7(火)~12(日) 【代金】358,000円

総合カタログ 2004年度 **無料**

ぜひご請求ください!

山旅専門 旅行社 **アミューストラベル**

〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目6-4 KN新宿ビル11階

TEL:03(5919)1188 FAX:03(5919)1189

会務報告

5月理事会

日時 5月12日 18時30分～20時30分

場所 日本山岳会 会議室

〔出席者〕 平山会長、芳賀、平林、橋本各副会長、藤本、今村、朴元、賛田、黒川、鈴木、野口、石田、篠崎、鳥居各理事、内田監事、宮崎、鰐坂、西村、重廣各常任評議員〔委任〕 小川、大蔵、田村各理事、一力監事、小倉(董) 常任評議員

〔審議事項〕

1 創立100周年記念事業募金について 芳賀

① 一般会員募金・3000万円
各支部へのお願いとともにも首都圏は委員会・同好会とともに各県ごとをお願いをする。

② 有力会員への募金依頼・600万円(20万円・5名、10万円・10名、5万円・20名、3万円・30名、2万円・50名、1万円・100名)とし、それぞれ会長、副会長、元会長、元副会長、理事、元理事、評議員、元評議員、監事、元監事、支部長、元支部長などをお願いす

る。(承認)

③ 大学山岳部OB会等への募金・300万円

④ 法人関係への募金3500～4500万円

⑤ 支部での募金・収入の8割は支部で活用し、2割を免税等本部手数料とする。

免税処置については6月末までに日体協のOKがもらえる見込。

2 東海支部ロートツエ南壁冬期登山隊の援助について

東海支部より追加支援依頼があり、150万円支援したい。藤本不足になったから出したということにならないようにしたい。

失敗してからあとで不足ということでは困る。 黒川

まだ登山継続中にさらに300万円

の補助をと言ってきたており、その時点では300万円は無理と答えた。 重廣

結論・決算状況を問合せ、その

内容により追加支援を決める。

〔報告事項〕

以下の件が担当者より報告され承認された。

1 上高地山岳研究所管理人の退任について 藤本

木村夫妻より今期かぎりでの退任したいとの話があり、交代要員をさがすことになった。

2 取材要請 藤本

① NHK「プロジェクトX」より

田部井会員の装備借用

② 日本テレビ「おもいっきりテレビ」(今日はなんの日)よりカン

チェンジュンガ縦走についての取材依頼があり、理事会の様子が撮影された。

3 同期会の同好会への変更について 藤本

92年より02年入会までの同期会、11団体のうち98年入会の同期会を除いて、10団体が別紙のとおり同好会となり、名称を変更した。

4 通常総会出席者状況 藤本

通常総会出席者180名、総会後の懇親会予定者120名の見込である。

5 各委員会報告

自然保護委員会 篠崎

中央分水嶺踏査の折にナタメなどつけないよう自然保護に気をつけてほしい。

十二分に気をつけている。

事業委員会 科学委員会・石田
テンギ・ラギ・タウ(6250) 朴元

で登頂を断念した。全員元気である。

会報編集委員会

5月号トップは渡辺兵力氏の「語り継ぐ日本の山」

学生部委員会

5月13日学生部の総会がある。新体制でスタートする。

6 その他報告

● 新ネパール大使歓迎会 芳賀
パーティーに出席したところ、大使から来年はマナスル50周年であるのでできるだけ応援してほしい旨発言があった。

● 猿投の森スタート 藤本
5月8日から東海支部猿投の森(高尾の森の面積約4分の3)がスタートした。

● 会員異動
小林延子(12115)03・8・22
鹿野茂利江(8270)
退会
竹中工務店(5070)
山形不二男(6436)
中村武久(6453)
河崎克彦(7558) 福岡
大川悦生(8046) 東海
宮崎啓介(8308)

物故

小林延子(12115)03・8・22

鹿野茂利江(8270)

退会

竹中工務店(5070)

山形不二男(6436)

中村武久(6453)

河崎克彦(7558)

大川悦生(8046)

宮崎啓介(8308)

INFORMATION



イラスト 宇都木慎一

◆海外登山・韓国の山と岩

事業委員会

岩登り初心者の方も歓迎！ソ

ウル市内一望できる国立公園北漢山のハイキングも計画しています。

日程 8月26日(木)～29日(日)

場所 北漢山・仁寿峰

費用 9万4千円(航空・宿泊・

食事・現地ガイド・現地移

動ほか)

募集 限定15名

申込 7月29日までに氏名、会員

番号、住所、電話番号、F

AXを明記し、ハガキまた

はFAXで山崎浩子宛(〒

236-0033 横浜市

金沢区東朝比奈1-65-3

FAX 045-782-8712)

*申込者に詳細案内を送ります。

◆発足40周年記念・上高地全国集

会へのお誘い 自然保護委員会

期日 9月10日(金)～12日(日)

場所 西糸屋、JAC山岳研究所

費用 全コース・約2万5千円

記念集会から・1万3千円

(宿泊場所による差額は別

途精算します)

日程 第1日 16時 現地受付。

会食後、映画会「昭和初期

の上高地」ほか(解説・羽

田栄治)

第2日 午前中支部報告会

13時・一般受付 14時から

40周年記念集会①自然保護

委員会の40年(解説・山本

良三、松本恒廣)②パネ

ルディスカッション・日本山

岳会自然保護活動のこれか

ら(話題提供・江本嘉伸、

パネラー・奥原幸(信濃支

部)、上幸雄(山のECHO)

O)、関清(山の自然学研

究会)、雨宮紀子(農大環

境調査隊)

第3日 協力事業(分科

会) 上高地歴史散歩、自然

観察ツアー、焼岳登山等、

(併設展示) スケッチクラ

ブ有志による絵画展・穂苺

三寿雄写真展

ハガキかFAXで菅沼満子

宛(〒184-0011 東

京都小金井市東町1-28-5

FAX 0422-31-279

0) またはメールで近藤緑

宛 (hachi-kondo@nifty.co

jp)

*折り返し詳細をお送りします。

◆フチ・オータムコンサート

山研運営委員会

今年も上高地で開催します。ワ

イン片手にアルペンムード溢れる

音楽をご一緒に楽しみませんか。

日程 9月18日(土)～19日(日)

集合 15時上高地山岳研究所

費用 1泊2食 1万1千円

申込 8月15日までにハガキに氏

名、会員番号、住所、連絡

先を明記し堀嘉余子まで

(〒168-0073 杉並

区下高井戸4-33-17)

*申込者に詳細案内を送ります。

◆100周年記念事業・白神山地

ブナ林再生事業 青森支部

世界遺産地域に隣接する生育不

良のスギ造林地を、ブナを主とす

る広葉樹の森に戻すための作業を

しています。始めてから6年目に

入り、スギの枯損木で赤く見えた

櫛石山の斜面が、緑の雑木林に変

わりつつあります。成果が見える

山の本の古書店

在庫目録年2回(5月・11月)発行
ご希望の方お申込ください。

ご蔵書を整理するときはぜひ弊店に！



古書買入

晴山書房

東京都中野区上鷺宮4-6-3

TEL&FAX 03(3990)4540

と、参加者たちも元気が出ます。

秋は、作業をしながらのキノコ

狩り、そしてブナの原生林散策な

ど、全国からの参加者と白神山地

の自然を楽しみながら、自然再生

のために一緒に汗を流しませんか。

日程 9月18日(土)～20日(月)

費用 食費3000円のみ

定員 50名

申込 9月10日までに氏名、年齢、

会員番号、住所、電話番号

またはメールアドレスを記

入し、ハガキ、FAX、メ

ールで、村田孝嗣宛(〒0

36-8323 弘前市浜

の町東5丁目3-19 FAX 0
172-334687メ
ー ル danburi@infoaomori.ne.
jp)

*日本山岳会HPの支部活動(青
森支部)もご参照ください。

◆紅葉山行「伯耆大山・三瓶山」

事業委員会

中国地方の名山を2つ登ります。

日程 10月9日(土)〜11日(月)

交通 東京〜岡山間新幹線利用

滞在 中現地移動は貸切バス

宿泊 大山寺・三瓶温泉

費用 7万5千円(予定・宿泊、
往復新幹線代、現地交通費、
保険料等)

定員 12名

申込

8月20日までに住所・氏
名・年齢・会員番号・電話
番号・FAXを明記し、ハ
ガキまたはFAXで山崎浩
子宛(〒236-0033
横浜市金沢区東朝比奈1-
65-3 FAX 045-782
-8712)

*岡山集合・解散も可能です。

*申込者には詳細案内を送ります。

◆富士登山(協力登山) つくも会

障害をお持ちの方々の富士登山
をサポートする企画です。つくも

会の例会山行ですが、地方支部の
方の参加も大歓迎です。

日程 8月22日(日)7時40分新宿駅

西口東京三菱銀行前集合

河口湖口〜八合目(泊)

23日(月)八合目〜富士山頂

河口湖口〜新宿

費用 1万円程度(バス代、1泊
2食代含む)

移動 貸切バス

申込 7月31日までに往復ハガキ
かメールで会員番号、氏名、
連絡先、富士登山と明記し
徳永泰朗宛(〒180-000
06 武蔵野市中町2-28-
12 toku3@parkcity.ne.jp)

*自家用車による現地参加等もお
受けします(詳細は参加者に別途
ご案内します)。

◆立山水河地形調査山行

山の自然学研究会

立山連峰の水河地形を昨年に引
き続いて調査、研修し、自然への
理解を深める。内蔵助カールで化
石水体(2千年前の水河?)が見
学できることでしょうか。一般会員
の参加も歓迎します。

日程 9月18日(土)〜21日(火)

集合 18日・富山地鉄富山駅前

行程 富山〜室堂 別山乗越〜剣

沢調査〜剣沢小屋(泊)〜
別山〜内蔵助山荘(泊) 内
蔵助沢調査〜内蔵助山荘
(泊) 雄山〜一ノ越〜室堂
〜富山(日程変更可)

費用 実費3万円(資料配付、宿
泊代)

定員 10名まで

同行 L末松日出雄、SL船橋明

保険 山岳保険に加入

申込 9月5日までにFAX番号
を併記し船橋明宛(FAX 04
67-3213011)

*申込者には詳細連絡します。

◆発足記念「山研の集い」

ゆきわり会

発足を記念し槍ヶ岳に集中登山
の後、上高地「山研」で懇親会。

期日 8月20日(金)〜23日(月)

行程 ①上高地〜槍沢コース・横
尾小屋泊 ②新穂高温泉〜
飛騨沢コース・槍平小屋泊
③中房温泉〜東鎌コース・
燕山荘泊(いずれも2泊目
は槍ヶ岳山荘泊) ④山研直
行の場合は22日14時に山研
集合

会費 9千円(宿泊、懇親会費用)

申込 7月31日までに会費振込に
て受付、通信欄に希望コー

スを記入し、郵便振込にて
(10080803290
81 JAC 97同期会・代
表者 増田幸雄 〒159
0002 世田谷区下馬
4-15-8)

問合 池谷健(TEL 042-366-
2465 メール ken1009
@dt.dion.ne.jp)

◆五百沢智也展「山を調べ山を描く」

会期 7月30日(金)〜8月22日(日)

時間 9時〜17時(会期中無休)

場所 安曇村資料館(松本から沢
渡への国道158号途中)

料金 大人100円、小人50円

※常設展示と共通

連絡先 安曇村資料館(TEL 026
3-942134 メール
azumi-nx@icon.pref.nagano.
jp)

日本山岳会会報 山 710号

2004年(平成16年)7月20日発行
発行所 社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビュウハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 平山善吉
編集人 今村千秋
Eメール jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社